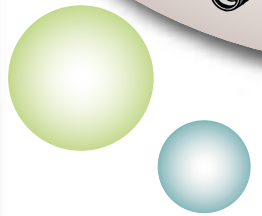


2006 かがみいし フォトコンテスト



3月27日(月)午後4時30分
から、町役場第一会議室で2
006 かがみいしフォトコン
テストの表彰式が行われまし
た。



最優秀賞「斜影」 佐浦元泰さん(鏡沼)

フォトコンテストは、高野池の白鳥や牧場の朝YOSA KOI祭りに代表される、町の観光資源をより多くのおみなさんに知っていただくため毎年実施しているもので、今年も「かがみいしの四季」をテーマに作品を募集。町内外から145点もの応募がありました。

厳正な審査の結果、最優秀賞に、佐浦元泰さん(鏡沼)の作品「斜影」が選ばれました。なお、入賞作品については、5月2日(火)から5月9日(火)まで、町図書館で展示いたしますのでぜひご覧ください。

今月の表紙!



春の到来です。間もなく町中が春色に染まり花の香りが漂ってくると思います。

町内各所には、美しい桜がたくさん植えられています。今月の表紙に掲載した、グリーンロードの桜並木もその一つです。

満開の折には、温かい春の日差しを浴びながら、家族や恋人とお花見に出かけてみませんか。

このほかにも、町内には、鳥見山公園や牧場通りなどにたくさん桜の名所があります。町民のみならず、今月は桜めぐりを楽しんでみてはいかがでしょうか?

東京かがみいし会通信

故郷を 想う



東京かがみいし会
村越五郎さん
(神奈川県在住・成田区出身)

私は成田出身で、子どもの頃は、第二次大戦末期と戦後の混乱期でそれは物のない時代「欲しがりません。勝つまでは」の世相の中で育ちました。夜になると灯火管制の薄暗い中で不自由な生活したことや、アメリカ軍の爆撃機による空襲があったことが強く記憶に残っております。

終戦当時は、成田小学校の2年生でした。物不足が深刻になり農家も食べ物に不足するありさまでした。占領政策の一環として間もなく始まった学校給食はアメリカの珍しい缶詰や粉ミルクが出されることも多かったように思います。今、思えば楽しく懐かしい思い出の一こまでです。

当時の思い出は多くありますが、中でも、学校の遠足で「岩瀬牧場」に行ったことは忘れられません。ホルスタインの牛が珍しく、あの白と黒との模様の牛を初めて見たときは驚きでした。付近の畑の大きさを見たこともない耕作用の大型機械、ポプラ並木、事務所として使っていた洋風の建物も珍しく印象的でした。

横浜に就職する日の朝、父が小雨の中を「鏡石駅」まで送ってくれましたが、二人で歩いた4kmの道はとても短く感じられた思いがあります。就職した当時は、慣れない都会生活で寂しさや苦しさもありましたが、故郷での家族のこと、学校での生活のこと、自然の中で友だちと遊んだ懐かしさを心の糧として思い出しながら頑張ったものでした。

当時は故郷の農作業も、現在のように機械化は進んでいませんでしたので、人手によるものが中心でした。農繁期には帰省して田植えや稲刈り等の手伝いをしました。その時の父母の喜ぶ姿を今でも忘れることができません。

6年前に、石川島播磨重工業を定年退職し、お陰様で縁あって関連会社に再就職して、充実した日々を過ごしております。定年前は、休暇も思うように取れませんでした。現在は年に2~3回帰省し、父母や兄弟の墓参りや小学校時代の先生宅に立ち寄って、話の機会を持ち当時の思い出話を華を咲かせております。今後も健康が許す限り続けたいと考えております。